

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成23年6月30日(2011.6.30)

【公表番号】特表2010-527593(P2010-527593A)

【公表日】平成22年8月19日(2010.8.19)

【年通号数】公開・登録公報2010-033

【出願番号】特願2010-508676(P2010-508676)

【国際特許分類】

C 1 2 N	7/00	(2006.01)
C 1 2 N	15/09	(2006.01)
C 0 7 K	14/14	(2006.01)
A 6 1 K	35/76	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)
A 6 1 P	35/02	(2006.01)

【F I】

C 1 2 N	7/00	
C 1 2 N	15/00	A
C 0 7 K	14/14	
A 6 1 K	35/76	
A 6 1 K	45/00	
A 6 1 P	43/00	1 2 1
A 6 1 P	35/00	
A 6 1 P	35/02	

【手続補正書】

【提出日】平成23年5月12日(2011.5.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

第1の突然変異を含む変異レオウイルスであって、前記第1の突然変異は、シグマ3ポリペプチドの発現を減少させる、シグマ3ポリペプチドの発現を本質的に排除する、または機能性シグマ3ポリペプチドの不在をもたらす、変異レオウイルス。

【請求項2】

前記第1の突然変異は、前記シグマ3ポリペプチドをコードする核酸内、または前記シグマ3ポリペプチドの発現を調整する核酸内にある、請求項1に記載の変異レオウイルス。

【請求項3】

前記核酸は、S4遺伝子である、請求項2に記載の変異レオウイルス。

【請求項4】

前記第1の突然変異は、遺伝子操作された置換である、請求項1に記載の変異レオウイルス。

【請求項5】

前記第1の突然変異は、1つもしくは複数のヌクレオチドの遺伝子操作された挿入また

は欠失である、請求項 1 に記載の変異レオウイルス。

【請求項 6】

1 つもしくは複数のさらなる突然変異をさらに含む、請求項 1 に記載の変異レオウイルス。

【請求項 7】

前記さらなる突然変異は、

ミュー 1 ポリペプチドの発現を減少させる、ミュー 1 ポリペプチドの発現を本質的に排除する、もしくは機能性ミュー 1 ポリペプチドの不在をもたらす突然変異、

ラムダ 2 ポリペプチドの発現を減少させる、ラムダ 2 ポリペプチドの発現を本質的に排除する、もしくは機能性ラムダ 2 ポリペプチドの不在をもたらす突然変異、および／または

シグマ 1 ポリペプチドの発現を減少させる、シグマ 1 ポリペプチドの発現を本質的に排除する、もしくは機能性シグマ 1 ポリペプチドの不在をもたらす突然変異、からなる群から選択される、請求項 6 に記載の変異レオウイルス。

【請求項 8】

前記第 1 の突然変異は、前記シグマ 3 ポリペプチドの発現を少なくとも 30 % 減少させる、請求項 1 に記載の変異レオウイルス。

【請求項 9】

単離されたレオウイルス感染性サブウイルス粒子 (ISVP) であって、突然変異を含む核酸を含み、前記突然変異は、シグマ 3 ポリペプチドの発現を減少させ、シグマ 3 ポリペプチドの発現の欠失をもたらし、または、非機能性シグマ 3 ポリペプチドの発現をもたらす、単離されたレオウイルス感染性サブウイルス粒子 (ISVP)。

【請求項 10】

前記突然変異は、前記シグマ 3 ポリペプチドをコードする核酸内、または前記シグマ 3 ポリペプチドの発現を調整する核酸内にある、請求項 9 に記載のレオウイルス ISVP。

【請求項 11】

前記核酸は、前記 S 4 遺伝子である、請求項 10 に記載のレオウイルス ISVP。

【請求項 12】

前記突然変異は、置換である、請求項 9 に記載のレオウイルス ISVP。

【請求項 13】

前記突然変異は、1 つもしくは複数のヌクレオチドの挿入または欠失である、請求項 9 に記載のレオウイルス ISVP。

【請求項 14】

1 つもしくは複数のさらなる突然変異をさらに含む、請求項 9 に記載のレオウイルス ISVP。

【請求項 15】

前記さらなる突然変異は、

ミュー 1 ポリペプチドの発現を減少させる、ミュー 1 ポリペプチドの発現を本質的に排除する、もしくは機能性ミュー 1 ポリペプチドの不在をもたらす突然変異、

ラムダ 2 ポリペプチドの発現を減少させる、ラムダ 2 ポリペプチドの発現を本質的に排除する、もしくは機能性ラムダ 2 ポリペプチドの不在をもたらす突然変異、および／または

シグマ 1 ポリペプチドの発現を減少させる、シグマ 1 ポリペプチドの発現を本質的に排除する、もしくは機能性シグマ 1 ポリペプチドの不在をもたらす突然変異、からなる群から選択される、請求項 14 に記載のレオウイルス ISVP。

【請求項 16】

前記シグマ 3 ポリペプチドの発現を少なくとも 30 % 減少させる、請求項 9 に記載のレオウイルス ISVP。

【請求項 17】

増大した感染力を有するレオウイルスを作製する方法であって、

変異レオウイルスを生成するように第1のレオウイルスを突然変異させるステップであって、前記変異レオウイルスは、シグマ3ポリペプチドの発現減を呈する、シグマ3ポリペプチドの発現を欠く、または非機能性シグマ3ポリペプチドを発現する、ステップと、

前記変異レオウイルスを単離するステップであって、前記変異レオウイルスは、前記第1のレオウイルスと比較して増大した感染力を有する、ステップと、を含む、方法。

【請求項18】

前記増大した感染力は、前記第1のレオウイルスと比較して、前記変異レオウイルスによって感染することができる腫瘍細胞の範囲の増加、または前記第1のレオウイルスと比較して、前記変異レオウイルスによって感染される細胞の数の増加によって証明される、請求項17に記載の方法。

【請求項19】

遺伝子操作されたレオウイルス感染性サブウイルス粒子（ISVP）を得る方法であって、

シグマ3ポリペプチドの発現減少を呈すように、シグマ3ポリペプチドの発現を欠くように、または非機能性シグマ3ポリペプチドを発現するように、第1のレオウイルスを遺伝子操作するステップと、

前記遺伝子操作されたレオウイルスを培養するステップと、

ISVPを単離し、それによって遺伝子操作されたレオウイルスISVPを得るステップと、を含む、方法。

【請求項20】

請求項1に記載の前記変異レオウイルス、または請求項9に記載の前記単離されたレオウイルスISVPを含む、増殖性疾患の治療用組成物。

【請求項21】

手術、化学療法、放射線治療、および免疫抑制療法からなる群から選択される手順のうちの少なくとも1つとともに使用される、請求項20に記載の組成物。

【請求項22】

請求項1に記載の前記変異レオウイルス、または請求項9に記載の前記単離されたレオウイルスISVPを含む、医薬組成物。

【請求項23】

1つもしくは複数の化学療法薬および/または1つもしくは複数の免疫抑制剤をさらに含む、請求項22に記載の医薬組成物。

【請求項24】

突然変異を含むシグマ3ポリペプチドであって、前記突然変異は、ウイルスのカプシドに組み込まれない、または減少されたレベルで前記カプシドに組み込まれるシグマ3ポリペプチドをもたらす、シグマ3ポリペプチド。

【請求項25】

請求項19に記載の方法によって得られる単離されたISVP。